オンライン申請体験談

Windows Vistaでオンライン申請をしてみた

～Limitedではなく、For exampleの精神で～

兵庫県土地家屋調査士会神戸支部　奥村昌寛

本稿は、筆者がWindows Vistaで事前設定の実験と検証(申請、送信)を行った体験談と、注意していただきたい点をまとめたもので、日本土地家屋調査士会連合会(以下「連合会」という。)の監修を受けたものではありません。

連合会からの投稿依頼と近畿ブロックオンライン登記申請促進組織の後押しをいただき、設定方法が分らずにお困りの方のために情報を提供するものです。必ず動作することを保証するものではないことをご理解のうえ、実際に試される場合は、自己責任でお願いいたします。

実験、申請に使用した環境

Windows Vista Business SP1
Acrobat 9.0 Docuworks7.0

連合会配付の「らくらく」により事前準備を行い、更に追加で次のソフトを手動でインストールした。

①ICカードチェックツール
②SignedPDF
③XML署名ツール

ICカードとカードリーダ・ライタのドライバはVista対応版を使用してください。

連合会HPでは、会員の広場内にVista対応版の調査士ICカードのドライバが公開されていますのでこれをインストールする必要があります。また、お使いのカードリーダ・ライタのドライバがVistaに対応しているか、メーカーのサイトにてご確認ください。

間違ってXP用のICカードドライバを組み込んだ場合、Vista対応版のドライバをインストールする際、一旦XP用をアンインストールしますので、その後、Vista対応版をインストールしてください。

インストールと初期設定をする前に必ず行ってください。

「ICカードチェックツール」、「SignedPDF」、「XML署名ツール」の3つのソフトは、デフォルトのままインストールすると、Windows Vistaから導入された、ユーザーアカウント制御(以下「UAC」という。)が初期設定やインストールの邪魔をして不具合が発生します。(別表1参照)

このため、インストール、初期設定をする間だけ、あらかじめこのUACを「無効化」しておくことにより、不具合を少なくすることができましたので、先ずその方法から説明します。

基本的な流れは
(1) UACの無効化(再起動が必要)
↓
(2) 各種ソフトのインストールと初期設定
↓
(3) UACの有効化(再起動が必要)
となります。

(1) UACを無効化する
コントロールパネルで設定する方法
①スタートボタンから[コントロールパネル]を開きます。
②[コントロールパネル]のホームが表示された場合、画面左側で[クラシック表示]を選択します。
③[ユーザーアカウント]アイコンをダブルクリックします。
④[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]を選択します。
⑤[ユーザーアカウント制御]ダイアログが表示されたら、[続行]ボタンをクリック(管理者アカウントの場合)、または管理者アカウントのパスワードを入力して[OK]ボタンをクリック(標準アカウントの場合)します。
⑥[ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]オプションのチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。
⑦再起動をします。

(2)「ICカードチェックツール」、「SignedPDF」、「XML署名ツール」の3つをインストールして初期設定を行います。各ソフトの取扱説明書に従い、インストール、初期設定を行ってください。

(3) UACを有効化する

①前述(1)の操作を再度行い、⑥の[ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]オプションのチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。

②再起動をします。

インストール、初期設定後、特に留意していただきたい点です。

1)「ICカードチェックツール」について

ショートカットをダブルクリックで起動させると署名検証時に「エラーが発生しました。環境を確認して再度実行してください」というエラーが表示されますので、**起動は、C:Program files￥ICカードチェックSetup内にある「ICカードチェック.exe」を右クリックして「管理者として実行」で起動させてください。**

2)「SignedPDF」について

UACを有効化することにより、「証明書管理ツール」や「署名時の既定値の設定」が動作しなくなりますが、電子署名はできました。**再度、「証明書管理ツール」等の操作をする必要がある場合は、UACの無効化を行うか、Acrobatを右クリックで「管理者として実行」で起動させてください。**

3)「XML署名ツール」について

もしも下記の表の不具合が発生した場合、対処法を参考にしてください。

オンライン申請システムに対する初期設定もお忘れなく。

法務省オンライン申請システムのHPの事前準備のページに説明があるとおり、Internet Explorerで法務省オンライン申請システムのURLを「信頼済みサイト」に登録しないと、電子署名付与時にエラーが表示され、正常に動作しません。信頼済みサイトの登録は、必ず行ってください。

参考　法務省オンライン申請システム事前準備
「信頼済みサイトへの登録について」
http://shinsei.moj.go.jp/cautions/winvista_1.html

「XML署名ツール」の不具合事例とその対処法について	
「java.lang.UnsatisfiedLinkError: C:¥ProgramFiles¥XmlSign¥mdisJNI_Pkilib.dll: 指定されたプロシージャが見つかりません」 という警告が出る。	Windows XPの場合、電子署名を行う場所に2バイト文字が含まれない場合(例C:¥onlinefile)に出ることが既知の問題として知られています。 このため、デスクトップ上で作業を行えば問題は解消できました。 ところが、Windows Vistaの場合、デスクトップは2バイト文字を使用していません。 C:¥Users¥****¥Desktop ↑ユーザー名 従って、2バイト文字を使用したフォルダを作成し、その中で署名作業を行いますと警告は発生しません。
「java.lang.UnsatisfiedLinkError: C¥ProgramFiles¥XmlSign¥MistyJni_dll:Can'tfind dependent libraries」 という警告が出る。	ファイルが2つ不足していることに起因するものです。不足しているファイルは、「CertVeri.dll」と「CertVUtl.dll」という名前で、C:¥Program Files¥Adobe¥Acrobat 9.0¥Acrobat¥plug_ins¥SignedPDF内にありますので、これらをコピーしてC:¥Program Files¥XmlSignにペーストしてください。 なお、「XML署名ツール」だけを導入する場合、これらのファイルを入手できません。ネット上で配付しておられる会員さんがおられますので、検索して入手してください。
リストボックス上にファイルをドロップして指定する機能が使えない。	ファイルをドロップできない場合は、「追加」ボタンからファイルを選択して、指定し、署名してください。

別表1（参考　UACを無効化せずに、デフォルトでインストールした場合の不具合）

順序	ソフト名	不具合
①	ICカードチェックツール	ショートカットをダブルクリックで起動させると、署名検証時に「エラーが発生しました。環境を確認して再度実行してください」というエラーが表示される。この問題は、UACを無効化しても直らないもので、本文記載のとおり、プログラム本体を「管理者として実行する」で起動させる必要がある。
②	SignedPDF	法務省が配付している住基カード用SignedPDFの説明書では、Acrobatを「管理者として実行する」ことで、初期設定ができると解説があり、この方法でも初期設定ができるが、電子署名時もAcrobatを「管理者として実行する」で起動しないと署名ができなかった。
③	XML署名ツール	XML署名ツールは、インストーラーに「CertVeri.dll」と「CertVUtl.dll」が不足している不具合があるものの、SignedPDFを先にインストールすることにより、ファイル不足による警告が出ないようになっていた。しかし、UACを有効化したままでは、警告が出て、C:¥Program Files¥XmlSignにファイルを追加する必要があった。

デフォルトのままインストールした場合、上記の不具合が発生しましたが、UACを無効化してからインストールし、初期設定を行うことにより、②、③の不具合を解消することができました。

おことわり

UACは、Windows Vistaで実装されたセキュリティ強化対策の中心となっている機能で、その目的は、不正プログラムの実行によるウイルス感染やセキュリティレベルの操作などの攻撃からシステムを守るために導入されたものです。大きくは次の二つの仕組みがあります。

・ユーザーが実行したプログラム（あるいは意図せずに実行されてしまったプログラム）が、システムの設定変更やシステムの重要なアプリケーションのモジュール置換をしようとしたときに、それをユーザーに警告し、（管理者）ユーザーが承認するまでそれを実行できないようにする。

・万が一不正なプログラムが実行されても、設定改変やモジュール置換はそのユーザーアカウントの範囲内にとどめ、同じPC上の他のユーザーアカウントには影響しないようにする。

今回ご紹介した方法は、インストールと初期設定に限りUACを無効化し、作業を行う方法を提案したものです。UACを無効化すると、セキュリティレベルが低下し不正なプログラムが、ユーザーの意図に反して実行されてしまう高いリスクがあります。

セキュリティレベル低下によって生じる問題については、各自の責任でご対処いただくことなります。筆者はその責任を負うことはできませんことをご了承ください。